

2008 年度

科目名 映像文化Ⅱ	対象学科・学年 文学部日文2 回生	担当者 羽田 景子
授業テーマ 映画に投影されたアメリカ社会		
授業の概要と目標 映画は製作者の芸術的表現、フィクション（作り話）に留まるものではありません。多くの観客を魅了するために、プロット（筋書き）や人間像にはその時代特有の価値観や社会意識が反映されています。本講義では 20 世紀初期～現代のアメリカ映画を扱い、その表現や変化に着目することで、アメリカ社会の人種・エスニシティ（民族性）、戦争、日本に対する認識とその変遷について学びます。		
評価方法 試験の成績及び小レポート、授業態度により評価します。授業態度は出欠、講義後に課す感想文によって評価します。		
テキスト 特に定めません。授業時にプリントを配布します。	著者	出版社
参考書 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』 その他、授業時に配布するプリントに記載します。	著者 有賀夏紀・油井大三郎 編著	出版社 有斐閣
授業スケジュール・内容 1. はじめに：講義の概要説明。ディズニー映画から見えるもの。アンケート実施。 2. アメリカと人種 ①：白人共和国の建設。黒人はいかに扱われたか。 3. アメリカと人種 ②：人種間の融和を求めて。公民権運動が映画に与えた影響。 4. アメリカと人種 ③：現在を生きるマイノリティーの姿。彼（女）らが直面する社会問題。 5. アメリカとエスニシティ ①：エスニシティとは。新移民と旧移民。 6. アメリカとエスニシティ ②：エスニシティ表現の評価とホワイト・バックラッシュ。 7. 2～6 の総括・補足説明。映画表現と多民族統合モデルの変遷。 8. 戦争の記憶 ①：ドキュメンタリー鑑賞。太平洋戦争＝「よい戦争」？ 9. 戦争の記憶 ②：アメリカにおける核のイメージ。 10. 戦争の記憶 ③：新たな表現への試み。「ヒーロー」のいない戦争を描くことは可能か。 11. 8～10 の総括・補足説明：戦争の表現から見えること。 12. 日本への眼差し①：奇妙な国、ニッポン：オリエンタリズムと黄禍論 13. 日本への眼差し②：危険な国、ニッポン：「ライジング・サン」（真珠湾）と「ライジング・エン」（貿易摩擦）。 14. 11～13 の総括：「日本」イメージの変遷から見えるもの。 15. 試験		